

## 国語科学習指導案

活動場所	本校舎3階	3年2組教室
生徒数	3年2組	男子18人 女子14人 計32人
指導者	教諭	時任 貴子

### 1 単元名・題材名

文学を味わう

「猫」トーベ＝ヤンソン、「初恋」島崎藤村、「たしかな表現のために」(文法2)、  
「話のリレー」(表現プラザ2) (三省堂 3年)

### 2 単元について

本単元は、本格的な翻訳物である「猫」と文語定型詩の「初恋」、文法学習の総まとめとなる「文法2」、「話すこと・聞くこと」の領域に位置づけられる「表現プラザ2」から成る。

「猫」は、主人公ソフィアが自分になつかない漁師猫のマップと人間によくついているスヴァンテという2匹の猫と接することで、相手を尊重した「愛」という価値観を獲得していく物語である。対照的な2匹の猫の姿は、猫本来の生き方を考えるとともに、人間の生き方に置き換えて考えることもできる。また、主人公ソフィアの心の変化や成長を共感することで、生徒自身も自己の内部へと目を向け、自分自身を再認識することができる。

「初恋」は、一人の少女と出会い、恋が芽生え、その恋が成就するという一つの物語性を合わせもった七五調のリズムのある文語定型詩である。初恋の甘酸っぱく、かつ、みずみずしい叙情を、言葉のもつ美しさやリズムから感じ取ることができる。

本学級の生徒は、新しい単元に出会うたびに高い興味・関心を示し、教材を「読むこと」に真剣に取り組もうとする。文学教材においては、第1学年の「竜」、「空中ブランコ乗りのキキ」、「トロッコ」や第2学年の「小さな手袋」、「走れメロス」などの作品学習を通して、描かれた情景をとらえ、そこから心情を読み取り、作品の主題を把握するという学習に取り組んできた。しかし、生徒は表面的な内容の読み取りのみで満足してしまう傾向が強く、作品をじっくりと読み深め、作品に対する感想や主題などを深くとらえ、互いの意見を語り合うといった姿は見られない。せっかく優れた文学作品に触れても、作品に対する感動や思いがさほど心に残らず、通り過ぎてしまうのは寂しい。

そこで、「読む」という行為が、単に文章の表現過程をたどるだけという学習に留まらず、作品の世界や変容する登場人物の心情を探り、自分自身を見つめ直す機会となるように、読みの深まりと広がりをもたせた授業を展開したい。特に、「猫」では個の読みを大切にしつつ、グループ内や全体で伝え合う活動を取り入れることで、人のもつ価値観について深く考え、ものの見方や考え方を広げさせたい。また、「初恋」、「表現プラザ2」では、朗読

や話のリレーなど「話すこと・聞くこと」の表現活動を取り入れることで、生徒の興味・関心を生かし、表現することの楽しさも味わわせたい。

以上のように、文学作品を読み味わい、その世界を共有しながら互いの「読み」を交流し、自分の意見を大切にしつつも、さらにその考えを深めることのできる単元としたい。

### 3 単元の学習目標

- 作品の学習を通して主題をとらえ、人間の生き方について自分なりの考えをもつことができる。
- 文章に描かれた人物や情景、心情などを、表現に即して読み味わうことができる。
- 相手の立場や意見を尊重しながら話し合いを積極的に行い、自分なりの考えを深めることができる。
- 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読んだり、用いたりして、文法について理解を深めることができる。

### 4 単元の評価規準 (文法2, 表現プラザ2は省略)

学習活動における 具体的な評価規準	想定される生徒の学習状況と手だて
	A 「十分満足できる」と想定した生徒の状況 C 「努力を要する」と判断した生徒への手だて
<b>ア 国語への関心・意欲・態度</b>	
① 作品を読んで感想や疑問、課題などをもち、主体的に作品を読もうとしている。	A 作品を主体的に読み、積極的に感想や疑問、発見をもとうとしている。 C 登場人物の言動や印象的な表現などに焦点を絞って、感想や疑問をまとめさせる。
② 自分なりの読みの根拠に基づいて話し合いに参加し、自分の見方や考え方を深めようとしている。	A 根拠を基に、積極的に自分の考えを述べるとともに、友達の見方から自分のもの見方や考え方をさらに深めようとしている。 C 意見の根拠となる表現を押さえさせ、友達の発表を参考にしながら考えをまとめさせる。
<b>イ 話す・聞く能力</b>	
① 根拠を挙げて自分の意見を述べるとともに、友達の見方を基に、自分の考えや意見を深めることができる。	A 根拠を挙げながら自分の意見を述べたり、友達の見方を尊重して聞いたりしながら、新しい見方や考え方に気付くことができる。 C 気になる表現や大事にしたい表現を挙げさせたり、友達の見方との共通点や相違点に注意しながらメモを取ったりさせる。
<b>ウ 書く能力</b>	
① 自分の立場や考え、伝えたい事実を明らかにし、論理的にまとめることができる。	A 根拠を明らかにし、自分の考えを分かりやすく表現することができる。 C キーワードを用いて表現させたり、適語を補充させたりしながら考えをまとめさせる。
<b>エ 読む能力</b>	
① 表現に即して場面の状況や人物の心情を的確に読み取ることで主題をとらえ、作品や課題に対する考えを深めることができる。	A 表現に即して人物の行動や心情を理解し、作品の主題をとらえ、生き方について考えを深めることができる。 C 手掛かりになる表現を示したり、友達と意見交流をさせたりして、人物の行動の意味や表現の意図を考えさせる。
<b>オ 言語についての知識・理解・技能</b>	
① 表現の仕方や言葉の使い方に注意して、作品世界をとらえることができる。	A 文脈の中での語句の意味や使われ方を理解し、豊かな表現を味わうことができる。 C 脚注や辞書を活用させ、言葉の意味を確認させる。

5 単元の学習及び評価計画 (文法2, 表現プラザ2は省略)

時間	学習の流れ	評価項目	評価方法
1・2	○ 全文を通読し初発の感想をとらえるとともに、感想や疑問点をまとめ、学習課題を設定する。	ア-① ウ-①	感想カード
3	○ 場面1を通読し、ソフィアのマップに対する思いをとらえ、学習課題を解決する。	ア-②	ノート
4	○ 場面2を通読し、マップ(猫)の特徴や生き方を読み取り、学習課題を解決する。	イ-①	観察, ノート
5 (本時)	○ 場面3を読み、スヴァンテ(猫)の特徴を読み取り、2匹の生き方の違いをとらえ学習課題を解決する。	ア-②, イ-① エ-①	観察, 話し合い ノート
6	○ 場面4を通読し、ソフィア的心情の変化をとらえ、学習課題を解決して作品の主題に迫る。	ア-②, エ-① オ-①	観察, 発表 ノート
7	○ 詩のリズムを生かしながら工夫して音読し、詩に描かれている情景を想像して読み味わう。	ア-①	観察
8	○ 作者の心情を想像しながら朗読して、鑑賞を読み深める。	オ-①	朗読

6 本時の実際 (5 / 8)

(1) 題材名 「猫」

(2) 指導目標

ア 場面3を読んで、2匹の猫の特徴を押さえ、比較することで、それぞれの猫が象徴している生き方について考えをもたせる。

イ 自分なりの読みの根拠に基づいて、積極的に話し合いに参加し、考えを深めさせる。

(3) 学習目標と学習課題

＜学習目標＞

場面3を通読し、2匹の猫の生き方の違いをとらえ、自分の考えをまとめよう。

＜学習課題＞

マップとスヴァンテのどちらの生き方が魅力的だろうか。

場面3を通読し、それぞれの生き方の違いやそれぞれの魅力に関する根拠を明らかにしながら、話し合いを通して自分の考えを深め、以下のようにまとめることができる。

マップは飼い主になつかず自分勝手に見えるが、猫の本質を失わず、人間に媚びることなく、自分の意思をもち、自分の力で生きていこうとするところが魅力的である。  
スヴァンテは飼い主に依存し、主体性が感じられないが、ペットとしてみれば人間の世界に自然に適応し、飼い主の言うことに従順に従うところが魅力的である。

(4) 授業設計の視点

ア 課題を明確にとらえ、追究意欲を高める工夫

1 単位時間の中で何を学習するのか、生徒に分かりやすい表現で学習目標と学習課題を設定して小黒板で提示し、全員で群読して確認させる。なお、学習課題は生徒たちの疑問点や感想を基に設定し、生徒の主体的な読みを保障するとともに、その課題を解決していくという問題解決的な学習の流れを取り入れ、生徒主体の学習活動を展開する。

イ 自己の考えと他者の考えを比較し、多角的に考える場の設定

個の読みの追究、小集団の話し合い、学級全体の練り合い、個の読みの確認などといった学習過程で授業を組み立てる。話し合いにおいては、「マップ」なのか、「スヴァンテ」なのか自分の立場を明らかにし、自分側の「良い」ととらえる根拠と、相手側の「好ましくない」ととらえる根拠を、本文に即してきちんと確認した上で、自分の意見が述べられるようにするとともに、話し合いが活発になるように場の設定等を配慮する。

ウ 学習課程の始まりと終わりの比較を通じて、自己の思考の深まりを確認するノートと板書の工夫

1 単位時間の中で、自分の考えがどのように変容していったのか、ノートを振り返ることで実感することができるような構造的なノート作りを心掛けさせる。まず、自己追究で自分の考えを書き、明確にとらえさせる。次に、相互練り上げの段階で友達の意見や指摘をメモし、自分の意見との違いを押さえさせる。最後に、自己解決で意見の修正や付け加える部分を朱書きしたり、線で囲んだりして、視覚的に自己の変容を把握することができるノートと連動した板書となるように配慮する。

(5) 授業の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点と評価 (◆は評価項目、▽はカウンセリングの考えに基づく留意事項)
導入	5	1 前時の学習を想起し、本時の学習目標と、学習課題を確認する。	○ ノートを基に、前時までの学習を振り返り、本時の学習の目標と課題が確認できるようにする。 ----- < 視点ア > ----- 学習目標、学習課題を小黒板で示し、群読することで、本時の学習内容を確認させる。 (課題を明確にとらえ、追究意欲を高める工夫)
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     &lt; 学習目標 &gt;                      場面3を読んで、2匹の猫の生き方の違いをとらえ、自分の考えをまとめよう。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     &lt; 学習課題 &gt;                      マップとスヴァンテのどちらの生き方が魅力的だろうか。                 </div>	○ 猫を飼っている生徒に、どのような猫なのか簡単に紹介させマップと似ているところがあるかを確認し、本時に出てくるスヴァンテとはどういう猫なのかを想像させる。
		2 「我が家の猫自慢」として、自分の飼っている猫を紹介する。	

展 開	5	3 前時に学習したマップの 生き方を確認する。	○ 前時のノートで確認しながら発表させる。 ○ 板書する際、根拠となる教科書本文の表現と、 それに対する意見や感想の違いが分かるようチョ ークの色を使い分ける。	
	10	4 重要語句に注意しながら 場面3の範読を聞き、スヴ ァンテの特徴をとらえる。	○ 解決の手掛かりとなる語句等に傍線を引きなが ら黙読させる。 ○ 前時にまとめているマップとの違いがとらえや すいように、比較するための観点を示す。 ・居場所・眠り方・食べ物・性格	
	3	5 課題に対し、魅力的だと 思う根拠を挙げる。	○ 比較する観点に基づき、自分の考えをノートに まとめさせる。 スヴァンテ→言うことをよくきくから おとなしくてかわいいから マップ→自由気ままで飽きないから 自分の意思がありかっこいいから ○ 机間指導をしながら生徒の反応を把握し、指名 計画に役立てる。	
	10	6 「スヴァンテ」と「マッ ペ」それぞれの「生き方」 の根拠を文中からとらえな がらグループとしての考え をまとめる。	○ それぞれの長所と短所を考え、より多くの長所 を考えさせる。 ＜視点イ＞ 根拠となる表現を基に、同じ立場のグループ で、意見を深めさせる。(自己の考えと他者の考 えを比較し、多角的に考える場の設定) ◆ 意見の根拠となる表現を押さえた上で、自分の 考えを積極的に述べ、読みを交流することで、考 えを深めているか。	
	7	7 全体の場で、グループで まとめた意見を確認し、意 見を練り上げる。	○ どちらが良いという優劣を付けるのではなく、 学習課題の根拠を文章表現から見つけられるよう 発問に配慮する。 ▽ 課題解決の手掛かりとなる発表には、しっか りと賞賛を与え、ポイントとなる部分は反復して確 認させる。 ▽ 根拠や自分の考えに行き詰まったり、沈黙し たりする場面になっても、性急に発表を求めるこ とのないよう発問等に十分配慮する。	
	5	8 全体で練り上げた考えを 参考に、自分の考えを自分 の言葉でまとめる。	＜視点ウ＞ 変容が分かるように、朱書きをしたり、線を 引いたりさせる。 (学習課程の始まりと終わりの比較を通じて、自 己の思考の深まりを確認するノートと板書の工夫) ◆ それぞれの猫が象徴している生き方の根拠を表 現から読み取った上で、自分の意見をまとめるこ とができたか。	
	終 末	5	9 本時の学習を振り返り次 時の学習を確認する。	○ 本時の取り組みについて自己評価させる。 ○ 次時の活動の見通しをもつ。